

いぶやの社もり

第12号

令和6年7月

揖夜神社
総代会

揖夜神社
ホームページ



<https://iya-jinja.jp/>

御遷宮について

揖夜神社御造営委員会

総務部長 越野伸夫



正遷座祭まで十ヶ月有余となりました。皆様には格別のご理解とご協力を賜っておりますこと、厚く御礼申し上げます。

此度の御遷宮において、総務部は全体の調整や取りまとめを担っております。この中で特に重要な取組みは、松江市史料調査課や外部有識者のご協力のもとに立ち上げた「神社調査委員会」と連携して行っている当神社に伝わる古文書・宝物・棟札等々の解説と整理です。

この調査活動による一部を申し上げますと現在の本殿は昭和九年(1934年)に、また手水舎は昭和二十七年(1952年)に建替えられたことが判明しました。この取組みは、掛け替えない本殿等々の建物の維持や貴重な品々の散逸を防ぎ歴史的事実を明らかにし、将来に繋げていくうえで

極めて重要な意味を持つものと考えております。

さて、改めて御遷宮を振り返りますと本殿の屋根葺き替えを中核として、ほぼ三十年毎に行われております。ただ、昭和9年から昭和三十五年(1960年)の御遷宮の間には手水舎の建替え、さらに次の平成六年(1994年)の間には随神門の屋根葺き替え、さらに此度の御遷宮までの間には八脚門(中門)の屋根の棟修繕と葺き替えが行われた他、危険木の伐採など回避出来ない事柄への対応で少なからぬ費用を要しております。御遷宮時に全て対応することは困難であり、また特に建物は劣化による修繕時期が一様でない為、次の三十年の間にも対応せざるを得ない事態の発生が予想されます。

昨今の世界情勢等を背景に物価が上昇し、生活に大きな影響が出ている中で申し訳なく存じますが、前述の御遷宮間における対応をもご理解賜り、寄進金目標額の達成に向け引き続きご支援ご協力のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

祈年祭・福神祭

春風わたる四月十九日(金)に祈年祭・福神祭が斎行されました。祭典は午後三時から行われ、十五名の総代が参列しました。

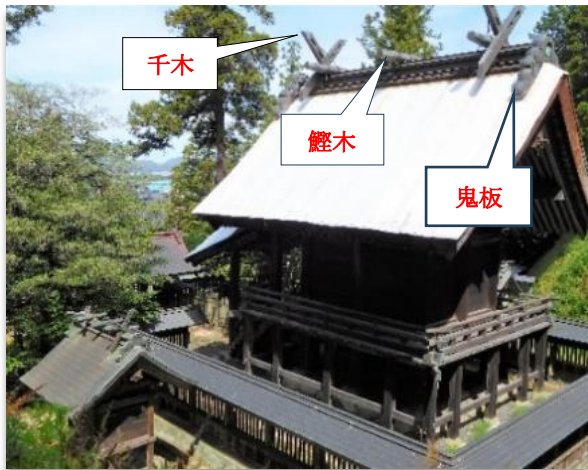
当日は好天に恵まれ、参拝者は約千五百人の多数となりました。また奉賛会による福引抽選会が拝殿において行われ、賑わいを盛り上げました。今回から遠方よりの参拝者にも抽選会に参加していただきました。上位当選者がでる毎に鐘が鳴らされて歓声があがり、夕方七時には、用意した景品がほぼ完配するほどの盛況でした。



御造営工事の様子と今後の予定

令和五年十月二十三日

に着工し、由緒碑の移設並びに年末には、昭和二十七年(1952年)に新築された手水舎について、屋根の下地材を全部交換のうえ銅板で葺く屋根工事をはじめ、手水鉢周囲の土間や手水舎前の参道を含めた全面改修が完了しました。



当本殿は、最も古い建築様式といわれる「大社造り」で屋根の頂部には箱棟と呼ばれる銅板で包

んだ棟があり、その上には千木・鯉木(勝男木とも書く)が載っており、両端には鬼板といわれる大きな棟飾りがつき、尊く高い神威を体現しています。

令和六年

一月から既存の屋根葺き材や野地板・野垂木を撤去のうえ新しいものに交換し、三月下旬から軒付け(本殿の軒厚...2.4cm、向拝の軒厚...2.0cm)を塗装、五月の連休明けに水切り銅板及び上目板を取付けて屋根葺き工事が開始され、七月末頃には完了する予定です。



葺き材は油分を多く含む水やカビに強い特徴がある杉の赤身部分を用い、これを厚さ6mmの板にして幾重にも重ねて施工する「とち葺き」を採用し、伝統を継承しました。葺き板は屋根の部位に応じ様々ですが、最も使用量の多い葺き板は、長さ36cmで、さらに表面を斜めに削ってあります。葺き板は全て「手割り」で、機械で挽いた板に比べ板同士に適度な隙間があるためスムーズに雨水を流し、空気の層ができて乾燥も早いという利点があります。一方、全て手作業であるため膨大な時間と労力を要します。今回用意した板は、およそ五万枚です。

今後、多少変動することもあります。八月から十月末の予定で箱棟、鬼板(300kg×2基)、鯉

木(長さ:2m28cm、中心径:30cm×3本)千木(長さ:3m22cm、幅:28.5cmを1対×2基)の設置と板金工事が行われ、十一月末には本殿周りの足場を撤去する予定です。

この他、二月初旬から四月下旬にかけて拝殿から八脚門(中門)に上がる石段の据え直し工事が行われ、四月初旬には鳥居の右・木鼻の歪みが修理されました。



また、随神門は五月中旬から六月初旬に土間改



修工事が行われ、九月から屋根改修工事に着手し十二月末に完工の予定です。さらに、拝殿の屋根にある鳥ぶすま(棟の端についている円筒状の飾り)の改修工事を行い、十二月初旬から令和七年三月末の予定で、八脚門から本殿向拝までの腐朽した玉垣の新設や本殿周囲の板塀、八脚門の両側の石垣上にある板塀の改修及び韓国伊太氏神社と三穂津姫神社の屋根改修工事等を行う予定です。

奉納餅行列

揖夜神社御造営委員会

祭典部長 岩谷英樹



揖夜神社正遷座祭は、いよいよ来年五月十七日に斎行されます。三十年振りの遷宮を皆様と共に盛大にお祝いしましょう。祭典部では奉納餅行列実施要領を作成し各地区に配布しておりますが、その概要についてお知らせします。

- (1) 集合時間 地区別出発時間の15分前までに
- (2) 集合場所 (ア～ウ)
- (3) 出発時間 ①～⑬の番号順で15分間隔

最初に8..55先導露払い 奉賛会奉納餅

- (ア) 組嶽本店前東側より中町交差点まで
 - ④ 新中 9..45
 - ⑤ 西掛屋 10..00
- (イ) 合銀前北側より中町交差点まで
 - ② 中市場 9..15
 - ⑥ 中学校前 10..15
 - ⑦ 南中津 10..30
 - ⑧ 上分 10..45
 - ⑨ 千鳥町 11..00
 - ⑫ 五反田 11..45
 - ⑬ 附谷 12..00

(ウ) 中灘交差点より中町交差点まで

- ① 東市場 9..00
- ③ 西市場 9..30
- ⑩ 崎田 11..15
- ⑪ 平賀 11..30

※最後に特別参加…阿太加夜神社総代会

(4) 行列厳守事項

- ① 行列は各地区とも陸船を使用し、自動車の使用は禁止します。但し陸船が無い地区は、リヤカー・青竹等を使用してください。
- ② 行列参加者は白足袋(シューズ・草履)・白ズボン・法被等地区で統一してください。
- ③ 行列では各地区との間隔を5mとします。
- ④ 行列では、俵餅は子供が背負い、大餅は青竹につるし大人が担ぎます。
- ⑤ 神社前に到着した地区は、神職のお祓いを受け速やかに奉納餅の搬入を行い帰路につきます。
- ⑥ 陸船で地区内を巡回する場合は、行列責任者が指揮を執り通行の妨げにならないよう十分注意してください。

(5) 奉納餅等について

- ① 各地区の奉納餅行列(陸船等)が神社前に到着したら、大餅1個・中餅2個・俵餅13個(うち3個は持ち帰り用)とも境内の撒餅台に進み係員に渡して速やかに帰路につきます。また、持ち帰り用俵餅以外の餅を積んで参加する地区は神社前でお祓いを受け持ち帰ります。
- ② 持ち帰り用俵餅(3個)と空俵10俵の担当者を決めておき、餅撒き終了後に持ち帰る

- ・奉納餅は各地区で調達する(一律5万円助成)
- ・行列参加地区へ謝礼一万円・御神酒二本交付
- ・と参加児童に祝い金一人当たり500円を支給
- ・奉納餅用俵は、祭典部が調達し各地区へ支給

(6) 餅撒きと抽選会について

- ③ 各地区の奉納餅準備について
 - ・俵餅:13俵(うち3俵は持ち帰り)
 - 一つの俵に、もち米一升から90個の小餅を作り3個ずつビニール袋に入れたものを詰める。
 - ・大餅1個(直径80cm) 中餅2個(直径40cm)
 - ・5升のもち米で大餅1個:赤字で横に奉納・黒字で縦に地区名を記入する
 - ・5升のもち米で中餅2個:黒字で縦に地区名
- ④ 奉納餅の担ぎ方は、奉納餅行列実施要領を参照

(7) 交通規制(歩行者専用道路)

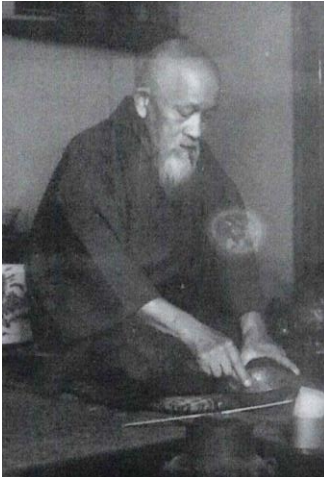
- ① 時間:午前8時30分より午後4時まで
 - ② 場所:各地区の集合場所から宮前団地入口まで
- ※詳細は、実施要領で確認ください

- ② 抽選会は、餅撒き終了後に行い大餅・中餅・小餅・お菓子セットを当選者に配布します。
 - ・抽選券は、事前に各地区に配布しますので、半券を当日8時より14時までに社務所前抽選箱に入れてください。
 - ・大餅1個+お菓子セット:14本
 - ・中餅1個+お菓子セット:31本
 - ・小餅3袋+お菓子セット:5本
 - ・小餅5袋+お菓子セット:50本
- 合計 100本

川島徳次郎特集

川島徳次郎氏は、戦前の出雲地方を代表する大工棟梁・木匠家で、現在の揖夜神社本殿・拝殿の設計に携わった人です。

徳次郎氏は、明治四年(1871)に井上宮司の分家筋である土族井上志津賀の長男として生まれ、のちに川島家の養子となった人です。幼くして養父母を失い、揖屋村大工岡村賢市の弟子となりこの道に進むようになりました。その後研鑽を積み、各地の名のある木工技術者に入りし技術を磨き住宅・神社仏閣・茶室の建築技術を極め数多くの建築物を残されました。また、工芸も欄間・扁額・机・箱物など多岐にわたり工芸家としてもすぐれた作品を残されました。



主な建物など

・木幡家飛雲閣(国指定文化財)

明治三五年(1902)三十一才

・出雲大社教本院祖霊社拝殿

大正十三年(1924)五十三才

・保性館 幽泉亭(国登録有形文化財)

昭和六年(1931)六十才

・揖夜神社本殿・拝殿

昭和九年(1934)六十三才

・揖夜神社拝殿の扁額(真心)

昭和十年五月寄贈

徳次郎氏は、はじめ「松雲」と号し

のち昭和二十一年頃

「天心」と改め昭和

三十年(1955)十二月

没。八四才

(記事及び写真は川島

徳次郎展より)



拝殿にある 川島徳次郎寄贈の扁額「真心」

本圖(図)は心如意の鏡の意を取りて作れるものにて心の篆字以て千鳥に象り浪即ち水をもって鏡に擬し明は日月を以て之を表せり(左側落款の上に刻まれています)

総代会の開催

令和六年四月二十一日午後二時よりヨリアイーナ東出雲にて令和六年度揖夜神社総代会が開催されました。令和五年度の事業報告と決算報告並びに令和六年度の事業計画と決算案が承認されました。



画と決算案が承認されました。工部部より遷宮工事の進捗状況の報告があり、最後に総代各位に新しい任期の委嘱状が交付されました。

輪越祭(六月三十日)

輪越祭は、夏越の大祓とも言い、人形を用いて身についた半年間の罪穢れを祓い清め、これからの半年間の無病息災を祈る神事です。また、十二月の大祓は年越しの祓とも呼ばれ、新たな年を迎えるために心身を清める払いです。六月三十日参拝者は、境内に作られた茅の輪を左から八の字に三回くぐり、持参した人形を奉納しました。

御本殿屋根見学会のご案内

令和七年五月の正遷座祭に向け、葺き替えにより新しくなった御本殿の屋根や千木・鯉木・鬼板の見学会を左記の通り行います。

御本殿の屋根を間近に見ることが出来る機会は、今回しかありませんので、お出掛け下さいますようお願い申し上げます。なお、狭く急な工事用の足場を約七メートル登降しなければなりませんので、ご承知おき下さい。

実施日 十月二十七日(日)

時間 ①十時～十一時

②十三時三十分～十四時三十分

方法 十名ずつ、十分間隔で交替

服装等 長袖、長ズボンで滑らない靴を着用下さい。

※ヘルメットは当方で用意いたします。

※写真撮影はお断りします。

※登降困難な方はご遠慮ください。ようようお願いいたします。

申込方法

穂掛祭(八月二十八日)、例祭(十月十九日)の時に社務所にてお申し込みください。

(なお、人数によっては見学出来ない場合がありますのでご了承ください。)